



## 学生相談室報告 (8)

額 額 康 兵

### Report from the Counseling Room (No. 8)

Kohei KOKETSU

What is human being? Oldest and yet contemporary question is always in my mind as a counselor.

さまざまな問題を抱えた学生達と面談していると、「人間とは何か」という最も古く、しかも常に新しい問いに自ら直面せざるをえなくなる。

古代ギリシャの時代には、哲学は学問一般を意味していた。時代とともに学問は分化し、自然科学が隆盛をきわめる今世紀といえども、人間の究極の根本原理を追求する哲学の精神こそが連綿と続く人間の「知」の発展の歴史の根幹である。今日までに人間については数えきれないほど多くの解釈や説明がなされてきたが、西欧の伝統的な哲学や神学が論じ続けている人間論がはたして現代に通用するのだろうか。あるいは比較的新しい学問領域である心理学の研究者達が唱える人間論がどの程度的に人間そのものを把えているであろうか。というのも、哲学や神学や心理学などの範疇に属する学問が人間存在を本質的に把握できたと言えるならば、人間理解について今日の我々がこれほどまでに苦悩することもなかりうにと考えるからである。

いかなる学問の分野においても、人間を完全に知り尽くすことは未だ不可能な状況である。とすれば、我々は何を手がかりに人間理解をおこなうのか。観念的に、言葉巧みにどんなに説明したところで、具体性がなければ、現実に存在する人間に対する抽象的な解釈の域を出ず、具体的な存在としての人間解明とはなり得ない。確かなことは、我々が現実には生きていくということ、万般の行為を積み重ねながら日常生活を生活しているということである。この現実の人間についての的確な説明ができないとすれば、結局は何もわかっていないということになり、人間に対するいかなる解釈も各人の思考の産物にすぎないと非難されても仕方がないであろう。哲学における人

間論は、まず人間についての概念規定から始める。しかし、この場合いかなる賢人といえども人間の思考が到達した概念自体に不可避の不完全性を認めないわけにはいかない。とすれば、こうした概念が人間を把握できるとは断言できないであろう。なんらかの概念によって人間を説明しようとする、その概念の間隙から人間がこぼれ落ちてしまう。概念による理解は人間のわずかな部分に光を当て得たにすぎない。古典古代の神学者、アウグスティヌスは「人間は深い淵から出てきた」と言った。おそらく彼自身が人間理解の容易ならざることを熟知していたからこそ、このように詩的な表現を用いて人間を説明しようとしたのであろう。これに類する人間についての表現は古来数多くある。詩的あるいは比喩的な表現は我々の心情に訴えはするが、あくまで心情論である。しかし、この心情的な表現こそが案外人間をよく把握しているのかもしれない。人間の定義として精神とか理性が挙げられ、これらの言葉が高尚な響きをもっていた時代から遠くいて久しい。人間はいまや地球そのものを破壊に導びくほどに途方もない武器を保有しているという戦慄すべき日常の中にあるのである。人間は単なる理性をもった動物にすぎないのであろうか。「理性をもった動物」という観点を進めていくと、人間は人間でなく、それ以下の動物にもなり得ることになる。

しかし、人間がはるか太古の昔から文化なるものを創造してきたという事実をみると、これこそは人間の知性であり、理性であったと考えざるをえない。文化はその時代とその場所に存在した人間による所産であり、それゆえに文化は普遍的であると同時に固有の性格を有しており、絶対的な普遍性とはなり得ない。だから人間論も

人間解釈も必然的にその時代を背景として理解する態度を強く要求されるのであり、時代の制約から逃れられない人間によってそれぞれに論じられる人間論が各時代によって異なるのは当然の帰結でしかない。人間はどのようにしても自分の眼を直接に見ることが不可能であるのと同様、人間が人間のことを知るには常に制約がつきまとうのである。

個々のケースの学生の背後に、彼の両親や家庭や今日の社会の諸問題が鮮やかに見えてくるにつれて、人間とは……と自らに対する問いかけも重くなる。

「人間とは、自分で答えることのできない問いを発する存在である」(カール・ラーナー)——まさに言いえて妙である。

付記：過去1年間に学生相談室で扱った件数を相談内容別に集計した下表をご参照頂きたい。

相談内容別取扱件数

(昭和59年1月17日～昭和60年1月16日)

相 談 内 容	件 数	%
1. 学業全般 (留年など)	113	47%
2. 学 生 生 活	81	34%
3. 対 人 関 係	14	6%
4. 精 神 衛 生	2	1%
5. 進路問題 (専攻, 就職など)	17	7%
6. 健 康 問 題	11	5%
計	238	100%

(受理 昭和60年1月30日)